

基幹共同研究

非文字資料研究ネットワーク形成研究

非文字資料研究ネットワーク形成に関する共同研究計画

金 貞我（非文字資料研究センター 研究員 / 研究班代表）

① 非文字資料研究の重要性

人類文化に関する研究は、基本的に文字資料に依拠して行われてきた。特に人類文化を歴史の深みから理解する研究は、歴史時代ということばが示すように、その対象を文字の使用からにし、未だ文字が使用されなかった時期を先史時代と区別してきた。文字資料による研究の歴史は長く、深い。それに対して文字で表現されることのなかった事象による人類文化研究は、その蓄積も文字資料研究に比較すれば遙かに少ない。しかし、実際の人類の生活は過去においても、現在においても文字化されることは少なく、人々の行為として示され、また文字以外の方法で表現されることが多い。これは実際の私たちの日常生活を見ても、大部分は文字化されないことがわかる。

② 21世紀COEプログラムの成果を継承

非文字資料研究センターは、無限といってもいい非文字資料を活用して人類文化を研究するために設立された。非文字という概念と共に研究を展開してきた神奈川大学21世紀COEプログラム（以下、COEプログラムと略称する）は、その活動の最初から、非文字資料研究の世界的研究拠点の形成を目指し、5年間の研究期間終了後にはCOEプログラムの成果を継承し、世界的な非文字資料研究の中心となるためのネットワークを形成することを表明してきた。今回設立された非文字資料研究センターの基本的な事業の一つが、非文字資料研究の世界的ネットワークを形成し、非文字資料について共同研究を実施することである。それを実現するために、非文字資料研究センターの基幹研究として設定されたのが、本共同研究である。

③ 共同研究の目標

本共同研究の目指すところは、神奈川大学非文字資料研究センターが中核となり、非文字資料に関する研究ネットワークを形成し、世界各地の非文字資料研究を展開

する研究者をつなげ、非文字資料に関する共同研究を実施することにある。これは、今までCOEプログラムが達成した成果および非文字資料研究センターの研究活動をグローバルの土俵に引き込み、世界的レベルの非文字資料研究と競い合いながら、本研究センターがその活動の中心的な役割を担うことを目指すものである。

しかし、この目標は簡単に達成できる課題ではない。日本における非文字資料研究の諸分野・諸方法については、COEプログラムの研究事業の成果としてある程度展望できるところまで達しているものの、世界各地における非文字資料研究の状況や研究方法などについては、必ずしも明確になっているわけではない。COEプログラムにおいても世界各地の研究機関と提携関係を結び、情報の交換、研究者の交流を進めたが、その提携研究機関は主に東アジアに偏っていた。それを補うものとして開催された国際シンポジウムや各班主催のワークショップは、世界各地から非文字資料研究を進めている研究者から最新の研究情報を得る機会となり、また私たちの研究状況について批判や提言をいただく好機にもなった。それらを通して大いに刺激を受けると共に、COEプログラムにおける非文字資料研究の成果が世界的に通用するものであると確信できた。しかし、非文字資料に関する共通の関心と興味をつなげ、共同研究を組織するまでには至らなかった。

④ 第一期の達成目標

以上の状況で基幹共同研究が発足したのである。したがって、必然的に、世界的な共同研究を展開するための準備研究が第一期の内容となる。その達成目標は以下のように考えられる。

世界各地における非文字資料研究の研究状況を把握・分析し、今後の方向を展望すること。

世界各地の非文字資料研究を展開する研究機関を網羅的に把握し、その中から重要な研究機関と情報交換関係を形成すること。

世界各地の非文字資料研究を行う研究者を把握し、研究協力者として組織し、研究協力関係を形成すること。

これらを実現するために、共同研究では、COEプログラムが取り上げた画像、身体技法、環境・景観を中心とするが、現時点では、非文字資料として独自性が明白な画像と身体技法にまず重点を置くことが構想されている。例えば、日本常民文化研究所およびCOEプログラムが達成した「絵引」という画像資料研究を、世界的な画像資料の活用方法とする可能性を追求することになるものと思われる。すでに、絵引編纂は、その斬新な画像資料の活用法で海外の研究者から高く評価された。そして、今後は、世界各地の文化史・美術史研究を行っている研究機関や研究者と協力しながら、画像資料研究の新たな方向を開拓できるよう、検討を重ねる必要がある。

身体技法については、今までも主として無文字文化を対象とする人類学がその研究を行い、研究蓄積も大きいですが、それ以外にも様々なパフォーマンス研究を展開する学問分野が登場しており、それらの研究を活動の中心とする研究機関・研究者に関する情報も収集していく。

⑤ 共同研究の内容

共同研究は、画像及び身体技法の研究状況を調査することから始めることになるものと思われる。まずは世界各地の研究水準を把握するため、今までの研究成果としての文献を入手して分析する。特に資料の内容と研究方法を重点的に把握する。そして、それらの研究を展開する研究機関、研究者の活動を把握するために、限られた予算を有効に活用して、海外の研究機関や研究者を訪れ、研究状況を調査することになるであろう。COEプログラムでは東アジアを中心に研究協力をしてきたので、本共同研究では主としてヨーロッパとアメリカにおける非文字資料研究の実情を把握することになるものと思われる。

共同研究は、参加者の研究員が頻りに研究会を開き、

収集した資料、情報を持ち寄り、それについて議論をすることが中心になると思われる。メンバーの研究員が積極的に参加し、活発に議論を展開する共同研究にしていきたい。

⑥ 課題

非文字資料研究センターの基幹共同研究としては、第一期の3年間を終えた段階で、世界的なネットワークを形成し、世界各地の研究機関・研究者と共同研究を展開することを目指す。この3年間での目標達成には不安もある。まず、共同研究を担うセンター研究員の中に、世界各地の研究状況を熟知している者が少ないことが挙げられる。特に身体技法の研究は世界的に盛んに行われているが、それを専門分野とする研究者を非文字資料研究センターとして確保していない。今後、センター研究員の拡充を期待すると共に、必要に応じては日本各地の研究者に支援を求めながら、センター研究員で足りない分野についても研究を展開していきたい。

長期的には、本研究センターの研究員が、内外の学会で積極的に研究成果を発表し、特に海外の学会を通じて神奈川大学非文字資料研究センターの研究成果を発信すると共に、海外における研究動向を直に把握する機会を増やすことも重要な活動にすべきであろう。そして可能であれば、本研究センターに拠点を置くウェブ上に非文字資料研究フォーラムを形成し、世界各地の研究者が自由に意見交換や議論できる場を設けることも、今後の課題としたい。

本共同研究はやっと組織化された段階であり、本格的な展開はこれからである。したがって、研究計画もこれから具体化していくことになる。共同研究の開始に当たって、研究内容や方法、さらに具体的な達成目標などを、研究員全員で協議しながら実施していきたい。

